

新年にあたり

北海道農業協同組合中央会会長 飛田稔章



は大きな転換期を迎えておりま
す。

特にTPPに関しては、菅首相
の所信表明演説での唐突な参加検
討の表明以来、国内には激震が走
り、大きく揺れています。

J Aグループ北海道は、この問
題が北海道にとって重要な事柄で
あり、経済団体・消費者団体など
とも連携し、J Aグループ北海道
をはじめ、漁業・林業に加え、道
経連・道消費者協会等56団体共催
のもとにオール北海道で、昨年11
月12日『地域社会のあり方等』こ
の国のかたち』を問う道民総決起
大会』を開催し、1700人もの
参集を頂き、「交渉参加の断固阻止
」を訴えました。大会アピールを
受け、直ちに「北海道農業・農村
確立連絡会議」として、北海道知
事らとともに政府や与野党に「農
業者はしっかり生産し、国民にと

って大事な食料を供給するという、
この基本を崩さないよう」強く要
請致しました。

この問題は、まさに「この国の
かたち」のゆくえが憂慮される事
態であり、組合員の営農と生活を
守るためにも政府の暴走を断じて
許すことは出来ません。今後も北
海道の総力を挙げて強力な運動を
展開してまいります。

さて、本年は『協同の力で築く
「あすの食をささえる北海道農業」
』を主題に開催した第26回J A北海
道大会の実践二年目を迎えます。

この決議事項である「北海道農
業の潜在能力のフル発揮への挑戦」
は、国民の命の根源である食料生
産を担う組合員が安心して農業経
営に従事し、更なるステップアッ
プを図り、食料自給率の向上に寄
与し、安全・安心な農畜産物の安
定供給を通じて、消費者の皆様
に北海道農業を応援して頂くため
の取り組みです。

また、J A経営では「協同と信
頼の絆で築く新時代のJ A」の実
践によって、経営の健全化と強靱
な経営基盤を確立し、組合員の期
待に応じられる高度な事業機能を
有するJ Aとなることを目指すも

のであります。

今後、景気の低迷や農業貿易
交渉等の進展によつては、農業
への影響が大きく懸念されます
が、全道の組合員の皆様をはじ
めJ A役員が『一人は万人の
ために、万人は一人のために』
という協同組合の理念をよりど
ころにして、J Aへの結集を強
め、協同運動を強力に展開する
ことにより、この苦境を打開し、
未来を切り開くものと確信して
おります。

本年こそは、災害がなく、豊
穡の出来秋を迎えることができ、
北海道農業の発展と成長を目指
し、飛躍の「卯年」となります
よう心から祈念申し上げ、新年
のご挨拶と致します。

